

令和7年度 稲沢市地域自立支援協議会 第3回こども部会 議事要旨

【日 時】令和7年12月4日（木）午後2時～午後3時40分

【場 所】稲沢市役所 東庁舎 1階 会議室8

【出席者】こども部会委員7人、その他2人、事務局5人

【欠席者】なし

あいさつ

1 協議事項

- ・前回会議（9月4日 こども部会）について（事務局から報告）

（1）強度行動障害に関すること（事務局から報告）

- ・本人、家族、事業所への支援の仕組み、専門人材の活用

部会長 地域として、本人や家族にどのような支援があるといいか。

委員C 一般的に、おむつの支給や家の改装費を補助するなどの支援がいいのではないか。
家族支援としては、相談窓口があるといいのではないか。

委員D PECSは家、保育園、事業所すべてで理解しなければならないと聞いており、その購入費用や共通理解のための知識が重要。購入費用の助成、地域の保育園や学校、事業所にPECSを学んでもらうことが課題だ。保護者のレスパイトを考える支援、専門的な知識を持っている人材の育成を定着させることも大事である。

部会長 児童発達支援センターでは言語聴覚士が個別の支援をやっている。保護者に必要性は伝えているが、使えるようにする支援はできていない。PECSを活用する専門人材を育成するためには、助成金が必要で、資金の捻出が課題になる。

委員E 乳幼児でも他害のある子がいる。強度行動障害の状態になる前にどう支援できるかを考えるべき。

事務局 通所事業所連絡会で冰山モデルを活用し、皆で考えることを実践しているが、行動の背景を知ることや特性を理解して支援につなげることも大切だと思う。

委員D 母が子のために支援を勉強していても、強度行動障害の状態になることがある。

事務局 強度行動障害の状態にある児童を支援できる事業所が少ない。そのようなかたこそ、事業所も対応できるようにする必要がある。事業所の一例として、PECSを使うことで自分の思いが伝わり、職員を突き飛ばす、服を脱ぐ行動がなくなった方がいる。保護者も説明を受けて理解して実践している。

委員E 事業所のコンサル契約のお金は、事業所が払っているのか。

事務局 そのとおり。医療機関のため金額は安くない。みなが根気よくやり続ける必要があり、事業所に理解がないと実践は難しい。

現場の職員だけでは冷静に見ることができない部分もあるので、客観的にアセス

メントし、何がどういう理由で起きているのか助言を受けることはよい。関係機関ができることを整理することも母の支援につながると思う。

部会長 児童発達支援センターとしては、今後、事業所を回り、特性を理解して受け入れできる事業所が増えるように対応したいと考えている。

また、「PECS ってなに？」というところがあるかもしれない。児童発達支援センターでは、ペアトレを実施していけるといいと思っている。ペアトレでは、行動をほめ、強化していくことをやっている。

委員D 事業所向けにそういう研修をやってくれれば、敷居が下がる。

部会長 地域のかたも学ぶ機会が必要だと思うし、悩まれているお母さんがたに対する支援も必要だと思うので検討したい。

(2) 医療的ケア児に関すること（医療的ケア児支援ネットワーク会議の開催）

- ・前回会議（10月31日 第2回ネットワーク会議）報告

- ・次回会議（令和8年2月）に向けて

委員B 市内小学校に入学予定の児の刻み食提供の件について、現状、学校での刻みは人材面や衛生面で対応が難しく、保護者に来ていただき、必要な食材を刻んでいただく方向性で進んでいる。細かい刻みには対応できないので、ご理解いただきたい。

委員E 現在通う園の園長が、現場の先生に見に来てもらおうと言っていた。実際に保育士が行っている刻みを見てもらい、やはり無理であれば仕方がない。

委員B また、看護師配置の件について、市としては看護師を配置する方向で何とかならないかと検討していたが、医師の指示がなければ看護師はなににもできない。

委員E 実際に、保育園でも看護師が何か行ったわけではなく、母の安心材料であった。

事務局 ネットワーク会議では、別の学校に行くことはできないのかという意見が出た。

委員B 特別支援に関わる子は、条件はあるが、指定校変更で対応できる。例えば、車いすを利用するかたと、エレベーターのある中学校に指定校変更ができる。

(3) 障害児等に係る療育システム等に関すること

1) 関係機関の連携強化、意識統一等

部会長 福祉事業所見学会は、どこの事業所に依頼するのか。

事務局 すべての事業所に声はかける。

部会長 保育園は児童発達支援（以下、児発という）、学校は放課後等デイサービス（以下、放デイという）を見学するのか。

事務局 希望する事業所で実施したいと考えている。

部会長 実施に向けて、日程調整に入ってもいいか。

委員F 新規で参加していただけたところがあるといい。

委員E 保育園の職員は、みな興味があると思う。相談支援専門員のかたと話す機会があり、

- 事業所はこういうところだと少しわかった。1月から3月は参加しやすいと思う。
- 委員 B 学校は、特別教育推進委員会で放デイ5事業所と大人の事業所の見学をした。誘っていただけるのであれば案内はできると思うが、時期と先生方の忙しさと参加率の心配はある。
- 部会長 児発の見学はされているのか。
- 委員 B そこには行ったことがない。
- 部会長 学校の教員も、児発も見学したいと思われるのか。
- 委員 B これまでは大人の事業所を見学したが、今年新たに放デイを見学した。今後、もっと小さい子をみようとなるかもしれない。
- 部会長 保健センターの職員も機会があれば参加可能か。(可能である)
- 事務局 事業を進めるにあたり、事業所で時間や人数の指定はあると思うが、どんなことが知りたいか。
- 委員 E 実際の療育の場面を見られるといい。
- 部会長 実際の療育の場を見学し、療育の内容の話もできるといい。
次に、合同研修会の開催について、検討を進めていいか。
- 委員 E 共催とあるが、研修費はどこが出すのか。来年度の予算が決まっているため、来年の開催はむずかしい。例えば、児発センターで開催、参加するかたちなら問題ない。
- 事務局 予算がとれそうであれば、議題に挙げることにしたい。
また、子育て支援課 子育て相談室なのはなで、今年度も2月15日(日)の午前中に研修会を行う予定。

2) 稲沢市サポートブックについて

・活用促進について

- 委員 D (サポートブック活用促進のための資料は、) 必要なものチェックリストのようなものか。
- 事務局 例えば、医療機関の診断書の写しを挟み込むなど、分かりやすく箇条書きに書くと、一目見て分かるのでいいと考えている。
- 委員 E 保育園や学校では支援計画をコピーして渡し挟むように伝えている。事業所の個別支援計画は綴じこまれていない。まずはしっかり福祉に乗っている子が、確実に使うことを前面にやっていくことがいいと思う。
- 委員 D サポートブックを読み直してみたが、小さい頃から大人になるまで内容が一緒。小さい頃は役立ち、高学年になっても福祉サービス等を利用する子であれば年金受給を見据えて必要なところがチェックできるが、そうではない子は使わない。自由記述でなくチェック項目で、様子を書くところがないと、学校の先生は見ないと思う。本当に必要な子に普及したいためか、記録として使ってほしいのか。
- 事務局 支援がつながるためのものとして考えている。

委員D あったほうがいいと思う。親なきあとに使えるよう、個別支援計画をひとつにまとめるという部分ではありだと思う。いろいろなチェックリストとしてこういう使いかたもあると保護者へ周知してもらえるのもいい。

委員E 並行通園も始まり、本当に同じ支援ができているのかと思うところもある。個別支援計画などが挟んであれば、お互い見比べることができ、学校にも繋がっていく。

委員D 発想をかえて、事業所が書くスペースを作ることはどうか。

委員E 増やすことは負担になるので、今あるものだけでいい。今作っているものが共有されないのはもったいない。個別支援計画はつながってほしい。

事務局 自分が書いてきたことを、先生たちが理解してくれたと保護者が思えることや、関係機関が保護者に積極的に見せてもらうよう求めていくことは大事だ。

2 その他

稲沢市地域自立支援協議会講演会（R8.1.10（土）開催）について（事務局から説明）